

第2回奈良市移動等円滑化促進協議会会議録

開催日時	令和2年2月25日（火）午前10時から12時まで		
開催場所	はぐくみセンター1階ボランティアインフォメーションセンター会議室		
出席者	委員	三星委員、矢野委員、内藤委員、松本委員、江崎委員、東浦委員、大曾根委員、高橋委員、山本委員、山田委員(代理)、高見委員(代理)、西本委員、黒委員、村上委員(代理)、中岡委員(代理)、松井委員(代理)、松尾委員、今中委員(代理)、植田委員、米浪委員(代理)、木村委員、荻田委員 【計22人出席】(欠席委員：室崎委員、元山委員、田中委員)	
	事務局	福祉政策課：伯耆課長、西浦係長、元根、中村信、中村愛 都市政策課：若木係長、西窪	
開催形態	公開（傍聴人 6人）	担当課	福祉部 福祉政策課
議題 又は 案件	1 奈良市ユニバーサルデザインマスタープラン（案）について （パブリックコメントに対する市の考え方について）		
決定又は取り 纏め事項	「パブリックコメントの実施状況」及びパブリックコメントを受けての「奈良市ユニバーサルデザインマスタープラン(案)」について説明を行った。各委員からの意見等を反映した後、マスタープラン（最終案）とすることを決定した。		
議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等			
<p>1. 開会挨拶</p> <p>2. 奈良市ユニバーサルデザインマスタープラン（案）について （パブリックコメントに対する市の考え方について）</p> <p>【審議内容】</p> <p>(1)パブリックコメントにおいて、「移動等円滑化促進地区以外の区域についても促進地区に準ずる地区としてほしい」との意見に対する市の考え方について</p> <p>山本委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・促進地区以外の地域でも実際困っている方がいる状況であり、本計画にある促進地区の設定の考え方を示す記載部分については、もう少し踏み込んだ表現が必要では。 <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・促進地区以外の地域についての表現を検討する。 			

(2)表紙デザインについて

山本委員

- ・このマスタープランが広く市民の方に届き、市民全員が自分ごととしてまちを作っていくことが必要になる。本マスタープランのキャッチコピーである「だれひとり取り残さない！」のイメージを持ちやすく、市民の方が手に取りやすい、わかりやすいデザインにしては。

事務局

- ・市民の方に手に取っていただけるようなわかりやすい表紙となるよう、デザインについて検討し、修正を行う。

(3)その他の意見

矢野委員

- ・特に公共施設においては、杖をついて歩く方、車いすで移動される方もたくさんいるので、普段のみだけでなく工事中等の状況においてもバリアフリー化を図っていく必要がある。
- ・神社仏閣の砂利道歩道について、車椅子でも通行できるように両脇を舗装した通路を整備し、景観との両立を図ってほしい。
- ・リフト付きバスの導入を進め、交通の便を良くして行ってほしい。

西本委員

- ・リフト付きバスについては昨年観光バスを1台導入した。その他、市内路線バスでは順次ノンステップバスへの台替えを進めており、ノンステップバスは5割、スロープの出るワンステップバスも含めると8～9割導入できている。

松本委員

- ・聴覚障害者でも理解できるように、目に見えるわかりやすい情報の提供を行ってほしい。

高見委員（代理）

- ・電車内や改札では音とディスプレイで情報を発信する等、あらゆる方が情報を受け取れるように対策を行っている。

内藤委員、江崎委員

- ・市内のバリアフリー情報の収集・処理・提供手法について検討してほしい。

事務局

- ・現在作成されているバリアフリーマップを含め、様々な情報提供の方法を検討していきたい。

村上委員（代理）

- ・バリアフリー型信号機の整備状況は県の会議で情報発信しているが、より一層の情報発信を検討していきたい。

東浦委員

- ・地域においては、住民主体の通いの場となる事業（100歳いきいき体操等）を行っており、こころのバリアフリーを進めている。

大曾根委員

- ・地域での助け合い等不十分なところもあり、自助、共助、公助により、地域と行政が一体となっていく必要がある。

山本委員

- ・東部山間地域のバリアフリーに関して議論されていない。取り残されることのないよう、次年度以降東部山間地域の問題、課題についても議論していく必要がある。

村上委員（代理）

- ・バリアフリー型信号機の整備を進めているが、地域の選定は難しい面がある。老朽化したものを更新するにも予算を要するため、不必要なものは撤去し、必要なものを設置していくストック管理を行っていく。
- ・滋賀県大津市の事故を受け、未就学児童の安全の確保に向けたキッズゾーンの整備等、子どもたちの安全確保対策事業を積極的に進めていくことにより、多角的にやっていかなければならないという状況にある。

中岡委員（代理）

- ・通学路の交通事故の問題で、道路に構造物を設ける風潮も出てきている。安全対策としての必要性和バリアフリーの観点とは相反するところもあるので、様々な立場の話聞きながら必要な対策を検討していきたい。

今中委員（代理）

- ・県では交通事故防止対策や、バリアフリーについても重点的に対策を行っているところである。市においてもバリアフリー以外の予算も活用しながら、横のつながりを強化し、様々な補助金を活用し対策を行っていただきたい。

黒委員

- ・タクシーでは車両のユニバーサル化が進んでいない。理由は車両価格が高いことや、構造上、乗降に時間がかかることで乗降場所が確保できないことが問題となっている。本協議会等でご意見をいただいたり、乗務員がジェスチャーでお知らせする等、周知を図っていきたい。